

### 第3回大阪市中学校給食検討会議要旨

- 1 日 時：8月13日（水）15：00～17：20
- 2 場 所：大阪市役所地下1階 第5 共通会議室
- 3 出席者：藤原 政嘉 大阪青山大学健康科学部教授  
浅香 策雄 大手前栄養学院管理栄養学科教授  
滋野 由紀子 大阪市立大学経済学部准教授  
平井 さより 大阪市 PTA 協議会代表  
三木 あゆみ 同  
窪田 透 大阪市中学校長会代表  
玉井 得雄 教育次長  
沼守 誠也 指導部長  
荻野 哲男 教務部長
- 4 会議次第  
開会  
委員紹介（滋野委員）  
議事  
報告  
（1） 昼食提供事業の現状報告について  
（2） 昼食提供事業実施校（旧給食実施校）における昼食の現状等について（報告・意見聴取）  
（3） 他都市の中学校給食実施状況視察結果について（概要）
- 5 議事等要旨  
報告（1） 昼食提供事業の現状報告について  
昼食提供事業については、昨年4月24日に教育委員会として定めた中学生の昼食についての方針に基づき、今年度から開始しているものであり、今年4月より実施している12中学校での昼食提供事業の利用状況については、4月の利用率については12校全体で、50%を超えており、5月以降については、利用率の高い学校で約60%、低い学校で15%と幅があるものの、全体では30%台で推移している。また、味や量、メニューなど内容への要望については弁当業者とも調整を行っている。  
次に、現在実施している12中学校以外についても、2学期以降に昼食提供事業を開始する予定であり、本年度は26校を予定している。事業者については、7月に選定委員会を開き、2社に決定した。事業内容は既に実施している12校とほぼ同じ内容となっているが、配膳スペースがない学校がほとんどであり、業者が配送した弁当を安全かつ衛生的に保管できるよう配膳スペースを確保するとともに冷蔵庫等を設置し、2学期からの事業実施に備えていく旨、藤巻学校保健担当課長から報告。  
報告（2） 昼食提供事業実施校（旧給食実施校）における昼食の現状等について（報告・意見聴取）

第2回中学校給食検討会議において、中学生の昼食の現状について学校現場から報告を受けることが望ましいとの意見があったことから、検討会議において、本年3月末まで給食を実施していた学校をはじめ、各学校現場の状況を聞くこととした。

今回は、本年3月末に学校給食を廃止し、昼食提供事業を4月から実施している12中学校のうち、住吉中学校、木津中学校、矢田西中学校、鶴見橋中学校の校長から、4月からの昼食実態の報告を受けることとした。次回会議においては、給食を実施していなかった中学校からの現状報告を受けることとしている旨、藤巻学校保健担当課長から説明。

(住吉中学校・林校長 報告)

申込状況について、開始当初の4月は全日業者弁当か、家庭弁当かを選択するといったかたちをとるとともに、できるだけ弁当を利用してもらうよう努めたので、結果として87%の申し込み状況であった。

その後も、1ヶ月単位での申し込みで、1ヶ月全てが家庭からの弁当持参か、昼食提供事業による弁当かを選ぶ体制をとった。5月以降の利用率については、5月が約51%、6月～7月6日までについては、約45%であった。生徒の様子について、給食時と比較すれば、給食実施の時には、子どもたちが好む献立の日は概ね静かであり、嫌いな献立の日はざわめいており、残食も多かった。弁当持参が基本となった4月以降は、保護者も子どもたちが好むものを詰めておられる様子であると思われる、現在は給食実施時の「好きな献立の日」と同じ様子であることが多い。

現在の昼食提供事業に対する課題としては、アレルギーへの対応がある。また、本校では、校内で一人でも昼食を食べない、食べられない生徒をなくすことを取り組みとして行っており、参考データとしては、当日昼食を持ってきていない、もしくは注文していない子どもは、4月は月平均で約0.17%、5月は約1.38%、6月は約0.84%であった。

昼食提供事業に対する保護者の反応は様々であるが、量・食味については個々の嗜好による部分もあると考えている。また、注文方法に対しては、柔軟な対応を求める声が多く、1ヶ月全てが家庭弁当か業者弁当を選択するといった方法でなく、週に何日かは家庭弁当を持たせたいことから、日単位で選択できる方法を求める声も多い。

また、「食」に関する指導については、栄養士がこれまでプリント等を用いて行っていたが、給食が廃止された4月以降は誰が担うのかといった大きな問題もある。

さらに業者弁当の発注の窓口は業者が受け持っても、追加や修正等の細かい「漏れ」をフォローする者は管理職であり、結果として教員に負担が生じるのはいかがなものかと考えている。

(木津中学校・芝田校長及び西教諭 報告)

昼食提供事業に対しては、メニュー内容等には改善が必要だと思うが、その他は特に大きな問題はないと考えている。

(矢田西中学校・文田校長 報告)

給食の廃止に際しては、本校は、矢田地域にある7つの小・中学校と歩調を合わせ給食存続に向けて行動してきた。一方で、弁当持参を望む保護者もおられたことも事実であった。昼食提供事業については、「給食」復活への思いも絡んでいるのか、注文数について一定数以上の伸びがなく、弁当持参が多い状況である。昼食提供事業への抵抗感がある。保護者に対しては、4月以降、弁当づくりによる子どもとの接点を持つてほしいとの考えから、家庭からの弁当持参を常々お願いしてきた。6月以降、家庭弁当の持参が定着してくると、生徒の中には、「自分だけ業者弁当はいやだ」などの意見が多く、結果として家庭弁当の持参率が上昇している感はある。

家庭弁当のほうが、内容・量的に良いようであり、アンケートでは、家庭からの弁当持参が望ましいとの声は多い。昼食提供事業については、特に来年度以降の実施体制について、現在の利用状況などから現在の業者が撤退すれば、来年は変更点など含めてどうなるのかなどといった不安もある。

(鶴見橋中学校・安井校長及び西川教諭 報告)

本校では、「給食」が今後再開されるよう、その必要性を検証するために、今年度は昼食提供事業による弁当を食べていくこととした。しかし、昼食提供事業が開始されると、その内容が当初の想定と異なっており、保護者の理解を得られないと考えたことから、教育委員会や昼食提供業者に対して改善要望を行うとともに、家庭からの弁当持参を認めることとした。昼食時の状況としては、梅南中学校と同様に食缶方式で提供することとし、これまでの給食の名残を残しつつ、全生徒が食堂で一同に会して食べるスタイルを維持してきた。また、生徒や保護者が昼食提供事業に対してどう感じているのかを確認するため、「大阪市立鶴見橋中学校昼食あり方検討委員会」において、アンケートを実施し、利用状況や満足度、今後の昼食に対する要望などについて訊いてきた。今年度はなんとかやってきているが、来年度は350円での提供となることで不安はある。

報告(3) 他都市の中学校給食実施状況視察結果について(概要)

本年7月に実施した広島市、京都市、名古屋市への視察結果概要について報告。

広島市については、平成20年7月4日に2名の中学校給食検討会議委員とともに広島市立宇品中学校に、京都市については、平成20年7月11日に委員5名とともに京都市立月の輪中学校に、名古屋市については、平成20年7月17日に委員4名とともに名古屋市立丸の内中学校を視察し、各都市における給食の提供方法、調理方式、配膳室の整備状況や配膳状況、生徒の喫食状況やランチルームの整備状況などについて視察したこと及びその模様の概要について深見学校保健担当課長代理より報告。

また、9月以降に、第2回会議で提示していた、千葉県船橋市、高松市、千葉市への視察を実施し、次回以降の会議で報告する旨もあわせて報告。

## 6 閉会